

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871000473		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	芦屋ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県芦屋市松浜町13-18		
自己評価作成日	令和6年3月25日	評価結果市町村受理日	令和6年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和6年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に公園があり、見慣れた兵庫の山を一望でき心が落ち着く環境です。周辺環境が良く近隣からの協力も得ることができ、地域となじみの関係性がございます。認知症の対応においては、専門の資格・経験のある介護士が動いているため、病状は穏やかに生活はご本人様のライフスタイルに合わせたサービスを提供できるよう心がけております。医療面でも提携している内科も近く、周辺環境が良いです。定期的な受診や緊急時の受診対応は連携が取れております。また、皮膚科や精神内科、歯科も訪問診療の関係性ができており、ご家族への負担の軽減が可能な体制をお勧めしております。規模の大きな会社が運営している為、介護に関する情報を全国から得ることができ、また災害時や緊急時には、他の施設からの協力を得ることができます。職員の研修も各地で行われており、積極的に参加するようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にあり、玄関前の花壇に季節の木々や花々を植え、ベンチでくつろげる環境である。館内は、玄関スペース・廊下・ユニット間の行き来を自由にし、2階に広いテラスもあり、広い生活空間で利用者も職員も交流できる家庭的な雰囲気づくりを大切にしている。運営推進会議に複数の利用者・家族、地域からの参加があり、地域交流や地域貢献に積極的に取り組み、家族・地域との連携に注力している。PDCAサイクルにもとづいたケアマネジメント、詳細な「個別援助計画」をもとに、利用者個々の意向やニーズに応じた個別支援に取り組んでいる。手作りの食事を提供し、イベント食・行事食・昼食おやつレクリエーション等、「食」の楽しみを大切にしている。意向に応じた受診支援、医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「私たちは世界一番仲間を大切にするチーム」主軸に【SOYOKAZE から地域に心を傾ける】を事業者理念を掲げ地域のネットワークなどに参加しております。	新たな法人理念・事業所理念を作成し、玄関・事務所・ユニットリビングに掲示し、職員・利用者・家族と共有を図っている。事業所理念に地域密着型サービスの意義を明示している。事業所理念作成の際は職員の意見を集約し、理念の中に具体的な取り組みを明示し、全体会議やユニット会議で検討する際は理念に立ち戻るなど、理念の実践に向け取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を再開したことで近隣自治会や民生委員、方々等からのお誘いもかかり、避難訓練にも参加できる、付き合いに戻りました。近隣の方々と玄関前で触れ合うなどもございます。	自治会に加入し、自治会長・民生委員からの協力、「自治会だより」での情報提供を受けている。地域への散歩・喫茶・防災訓練への参加等で、利用者が地域につながる機会づくりを行っている。職員が地域の家族の集い・清掃活動・ウォーキングの会に参加し、防災訓練で車いす介助体験を指導し、災害時の福祉避難所として登録し、トライやるウィーク受け入れ体制を整備する等、事業所として地域交流・地域貢献に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時の福祉避難所として、事業所を利用して頂きます。介護支援事業所会議に出席し地域の取り組みに参加をしております。			

芦屋ケアセンターそよ風

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月から再開し、センター内部の報告会とご家族様・地域の方々からもご意見をいただき、要望やご期待に添えるよう取り組みに生かしております。	利用者・家族・市職員・地域代表（自治会長・民生委員）・事業所職員を構成委員とし、令和5年度は5月から毎回集合開催している。会議では、利用者状況・職員状況・事故ヒヤリハット事例・行事・研修等について報告し、参加者と意見・情報交換している。案内状に意見・要望欄を設けて郵送し、参加できない構成委員の意見の把握にも努めている。複数の利用者・家族の参加があり、ティーパーティー形式で話しやすい雰囲気づくりを行い、参加者の意見や情報をサービスや運営に反映できるよう取り組んでいる。	個人情報に配慮の上、議事録ファイルを玄関に設置する等、議事録を公開することが望まれる。知見者の参加が得られるよう取り組むことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの空き情報と利用者状況はご報告しています。高齢介護課よりこまめなメール配信や訪問もしてくださっており支援をいただいております。	運営推進会議に市職員の参加があり、市が派遣する介護相談員の訪問を再開し市と連携している。公的支援を必要とする利用者について、市のケースワーカーと協働して支援している。市の介護サービス事業者連絡会・グループホーム連絡会の会議・研修、社会福祉協議会主催の認知症ケア交流会等に参加し、ネットワークづくりに努めている。報告・相談・判断に迷う事等があれば、電話・メール・訪問で市の担当窓口にお問い合わせ、適正な運営につなげている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員を設置しており、毎月各ユニットの状況を話し合って改善策はないかを確認しております。さらに職員には研修を年2回行い、振り返りを行っております。職員間での注意できる関係性は気づき、お客様ファーストに向け努めております。	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、身体拘束をしないケアを実践している。管理者・ユニットリーダー・介護支援専門員を委員とし、毎月「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」を実施している。委員会では、身体拘束・虐待事例の確認と、未実施に向けた取り組み、良かったケア・悪かったケアの共有と適正化に向けた検討を行っている。委員会の内容は議事録を回覧し、回覧印で周知を確認している。年間研修計画に沿って、「高齢者虐待・身体拘束廃止」研修を、令和5年度は3回実施している。研修は全体会議の中で行い、受講者は研修報告を提出し、参加できなかった職員は資料配布・研修報告書の提出により周知を図っている。玄関の開錠・エレベーターの使用は操作が必要であるが、希望があれば玄関前・ベランダ・近隣の散歩に出かけ、閉塞感を感じないよう対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を設置しており、あざなどは記録に残し、なぜできたのかなど分析を行っていたり、介助方法に原因がなかったなども都度は話し合いを行うよう努めている。	「高齢者虐待防止」についても、「身体拘束適正化」と同様に、毎月の委員会・年3回の研修を実施している。研修の中で「虐待の芽セルフチェック」による振り返りを行い、委員会で「良いケア・悪いケア」の事例について共有し、不適切ケアの防止に取り組んでいる。職員・利用者のユニット間の行き来を自由にし、夜間はユニット間でクロス巡視を行い、風通しが良く、複数の気づきが反映できる環境作りを行っている。事業所内ではユニット会議でのケア検討・相談しやすい環境づくり、法人としてはストレスチェックの実施、相談窓口の設置等、職員のストレスや不安等がケアに影響しないよう取り組んでいる。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、利用いただいているお客様の気持ちをお一人お一人大事にしております。また、後見人様等制度の利用されている方にも偏りのないサービスを提供できるよう心がけております。	司法書士を後見人とする成年後見制度の利用事例がある。後見人への金銭管理等に関する書類の提供・利用者状況の報告・面会時の対応等、事業所として制度利用を支援している。運営推進会議に後見人が参加することもあり、連携している。また、運営推進会議で権利擁護に関する制度について説明したこともある。今後も制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり、て対応することとしている。	権利擁護に関する制度について、職員が一定の知識が得られるよう学ぶ機会を設けることが望まれる。
9		(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お困り後をより深く伺い、ニーズに合ったサービスのご提案をお伝えしております。また契約時に重要事項説明書等で、可能なこと不可能なことをきちんとお伝えし相互の確認を行っております。入居後はこまめに要望や、ご相談をうかがえる体制をとっております。質問は随時受け付けております。	入居相談・入居希望があれば、見学対応して館内を案内し、パンフレット・料金表をもとにサービス内容・料金等を説明している。契約時には契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。家族との面談の中で聴き取った個々の要望・不安等について、グループホームで出来ること出来ないことも含め詳細に説明し、理解と納得を確認している。契約内容改定時は変更内容を説明した文書を作成し、家族に電話やメールで説明した後に郵送し文書で同意を得ている。	
10		(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内状に御意見要望の欄を設け、ご連絡の際にもご意見を頂戴するよう伺うよう努めている。	家族の面会を再開し、面会時・電話連絡時・介護計画更新時等に近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。利用者の意見・要望は、日々の会話から把握に努めている。把握した意見・要望は「介護記録」に記録し、職員間で共有している。運営推進会議に利用者・家族の参加が複数あり、事業所や外部者に意見を表す機会がある。運営推進会議の案内状に「意見・要望」欄を設け、参加できなくても意見・要望を伝えられるよう配慮している。市が派遣する介護相談員の訪問があり、利用者が外部者に意見を表す機会を設けている。法人として家族アンケートを実施し、家族の意見・要望等を事業所に伝えている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所では全体会議・リーダー会議にて話を聞く体制を設け、可能な限り意見を反映させています。また、会社組織でも相談改善できる部署の掲示物を貼っております。	全体会議・リーダー会議（身体拘束適正化・虐待防止委員会、事故防止委員会、厨房会議含む）・ユニット会議を概ね毎月開催し、職員の意見・提案を利用者のケア・業務・運営に反映できるよう取り組んでいる。日々の検討事項や共有事項については、業務については「申し送りノート」で、利用者に関することは主に「介護記録」で共有している。定期的には年2回、随時にも、管理者が個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。法人としても、職員アンケートを実施し、法人代表者へのメールでのダイレクトラインを設置する等、職員の意見の把握に努めている。	各種会議の議事録を整備し、参加できなかった職員が会議内容を議事録で共有する仕組み作りが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課・契約更改制度を使って、面談等を行い、話を聞いて、目標設定や時には改善と指導に取り組んでいます。また、随時面談を行なっています。アンケートなども施行されております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター研修をはじめ本社案内の研修や、資格習得に向けての促しなどを行っております。職員の資格取得にも、補助供与をはじめとして会社・施設として後押ししています。また、現場ではトレーニング制度を設け新入職者の方にも安心していただけるよう体制をとっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ZOOMでの参加から開始、病院の研修会に参加、芦屋市のGHの連絡会や介護支援事業部会からの勉強会の検討にも取り組んでいます。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の言われた言葉やご家族様と共に支えていくことを指針に努めております。今までの環境・背景・嗜好等あらゆる角度からサービス体制が行える視点をもって柔軟に対応できるよう努め、受容を大事にしております。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の悲しみや苦しみ、葛藤等を深く傾聴し、お気持ちやサービス提供の異存はないかを入念に確認しております。大切なご家族様への対応が想像できるよう、連絡を取るように心がけております。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで知り得たニーズを第一とし、初期は短めの計画書を作成し、柔軟に対応の変更ができるよう作成しております。また、ご本人ご家族様に説明を丁寧におこなったうえ同意確認をしております。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の視界に入るよう目線をさげる、時には同じテーブルでお茶を飲むなどを行い、会話をする機会と時間に関係なく傾聴しております。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、家族様には日々の状態報告を行い、情報を共有しお互いに支え合えるように取り組んでいます。事業所でカバーしきれないところは、家族様にもご協力を頂いています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はございましたが、来客の機会を奪うことなく条件付きで面会いただきました。重ねて認知症のご理解と橋渡しにも努めました。	馴染みの人や場所についての情報があれば、「アセスメント表」や「介護記録」等で共有している。家族・友人・知人との面会を再開し、玄関スペースのベンチや居室でゆっくり面会できるよう配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。家族との外出・外食・外泊も再開し、馴染みの場所に家族と外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	周りの利用者同士で交流が持てるように、間に職員が入り、会話が進むように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、お手紙をお出ししたり、お電話で近況を聞いたり、何か困ったことがあればご相談して頂く様に声を掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いにより添えるように、いわれていた言葉、今も言われている内容を記録しホームでも自由に行動できる生活できる環境を取り入れる努力をしております。	入居時に把握した利用者の思いや暮らし方の希望・意向は、「アセスメント表」の「生活歴」「一日の過ごし方・趣味・特技」欄に記録し、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。入居後の会話や行動等から把握した内容は「介護記録」の「様子」に記録し、内容に応じて「アセスメント表」の更新時に追記している。把握が困難な場合は、表情や反応から汲み取れるようコミュニケーションを密にし、また、以前の情報や家族からの情報等を参考に把握に努めている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・家族来訪時に聞き取りを行い、少しでも多くの情報収集に努めています。普段の会話からも、ご本人の来歴を聞き取るよう努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	こまめにモニタリングを行い、状態把握に努めています。毎日の御様子も、職員間で共有できるようにノートで連絡を取り合っています。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、現状把握と共に情報共有し、介護計画を作成しています。また、他職種・家族にも聞き取りを行い作成しています。	「アセスメント表」をもとに初回の「介護計画」を作成し、「介護計画」のサービス内容の実施状況を「モニタリング結果」に毎日記録している。「介護計画」をもとに「介護援助計画」を作成し、支援項目別のニーズや詳細な支援方法等を明記している。日々の支援内容や生活の様子は、システム内の「介護記録」に種別を付けて記録している。初回の「介護計画」は1カ月後に、それ以降は定期的には6カ月毎に見直しを行っている。見直しの際は、「モニタリング総括表」による評価と「アセスメント表」による再アセスメントを行っている。利用者・家族・管理者・ユニットリーダー・ユニットの全介護職員・主治医・訪問看護師の意見を書面に集約し、サービス担当者会議を開催している。「介護計画」の見直しをもとに、「介護援助計画表」の評価・見直しを行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段より気づきがあれば、職員同士でも情報の共有化を図っています。介護援助計画表を使用して、情報の共有と統一に努めています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 第3	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ネット環境の普及で携帯電話やPCを取り入れられるかなど尋ねられたり、時代に合わせた体操への変更なども取り組んでおります。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて自粛要請がありお祭りや体操等地域のイベントなどにも参加できずでした。事業所前の清掃や近隣の住民の方とは挨拶は行いました。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症であっても適切な医療を受けられるように協力医師の連携を取りました。医師は、まずはご利用者様のお話に耳を傾けてくださいます。また必要性があれば、専門医に連携を取ってくださいます。	利用者・家族が希望する受診支援を「介護援助計画」の「医療面」欄に記録し共有している。協力医療機関による定期的な内科の訪問診療・訪問看護、希望に応じて精神内科・皮膚科・歯科などの往診を受けられる体制がある。他科については外部受診となり、家族の同行を基本とし、状況に応じて職員が同行している。外部受診の際は、かかりつけ医の紹介状・「診療情報・居宅療養管理指導書」・「介護記録」の「バイタルチェック表」等で情報提供している。医療に関する記録は、システム内の「介護記録」に種別「訪問診療記録」「訪問看護記録」「通院結果」に分類して記録し情報共有している。訪問看護結果は、「訪問看護記録」にも記録している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が月4回とオンコール体制を取り随時連携をとれるようにしております。必要であればかかりつけ医にも連絡を行い、連携しています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 評価	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要であれば介護サマリーを提供し、情報を提供しています。また、退院時には地域連携室の方々と連携を取って、速やかに対応しています。	入院時には、「アセスメント表」で医療機関に情報提供している。入院中は地域連携室と主に電話で情報交換し、早期退院に向け連携している。把握した利用者の状態や情報は「介護記録」に記録し、職員間で情報共有している。退院前に「退院・転院時看護要約」で情報を受け、職員で回覧周知している。ユニット内でカンファレンスを開催し、退院後の支援方法を検討し「介護計画」の見直しを行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段より身体状況を報告したり、事前に看取りについての話し合いを重ねています。重度化した際は改めて説明し、必要であればカンファレンスを行ない方針や対応について共有するよう努めています。	重度化や終末期に向けた事業所の方針について、「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」をもとに、契約時に説明し同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医が病状の説明を行い、管理者が指針の内容を再度説明している。看取り介護の希望があれば、「急変時や終末期における医療時に関する意思確認書」で意向確認を行い、「看取り介護についての同意書」で同意を得ている。看取りに向けた「介護計画」を作成し、看取り期は1カ月毎にサービス担当者会議で計画を見直し、主治医・訪問看護師・家族・事業所で連携しチームで支援に取り組んでいる。年間研修計画をもとに「看取りケア」研修を行うとともに、事例がある場合はユニットでも研修を実施している。看取り後には、「ご逝去後カンファレンス」で振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については入職時より連携手順を伝えており、研修も行っています。また、事故発生時や事故になり得る状況であった時(ヒヤリ)、報告しカンファレンスを行ない、対応について話し合います。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や研修で改正部を周知しています。災害時の避難場所についても周知を図るとともに、普段より近隣の方にお声をかけ、災害時に協力が得やすいように努めています。備蓄品を常備しています。	年間計画に避難訓練計画を入れ、年2回訓練を行っている。令和5年度は6月に日中想定火災・防災(自然災害・地震)訓練を、10月に夜間想定火災・洪水訓練を実施している。「防災訓練計画書」に沿って実施し、利用者も参加して避難誘導を行い、実施後に「防災訓練報告書」を作成している。参加できなかった職員には報告書を回覧し、避難方法・良かった点・問題点等の周知を図っている。以前から緊急時の福祉避難所として登録しており、令和5年度は地域の公園での防災訓練にも参加し、災害に備えて地域住民と協力関係を構築している。「避難確保計画」を作成し、「備蓄食料棚卸表」で法人から支給された備蓄を管理保管している。また法人内の他施設から災害・緊急時に協力を得られる体制がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の観点から、何気ない声掛けが相手にどの様に受け取られるかを考えるように指導しています。また、事業所内外の研修を通じて接遇についても理解を深めています。	年間研修計画に沿って「個人情報・プライバシー保護」「認知症ケア」「高齢者虐待・身体拘束廃止」研修を実施し、人格尊重や誇り・プライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」の中で良いケア・悪いケアについて振り返りを行い、議事録の回覧により職員に周知を図っている。利用者個々の「介護援助計画」の「排泄」「入浴」の支援方法にプライバシーへの配慮事項を記載し実践につなげている。気になる声かけや対応があれば、管理者やユニットリーダーが注意喚起・助言を行っている。写真掲載・映像の使用については、入居時に文書で同意を得ている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決定して頂ける様な声掛けを行うようにしています。夜間やご不安な時も随時お話を伺います。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごして頂けるように心を傾け、気持ちに寄り添って対応しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で選んで頂ける方には選んで頂き、難しい方に関しては、本人に合った服装を意識しています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に関しては調理をはじめ可能な限り行なって頂いています。感謝のお声かけも欠かしません。	法人の献立表をもとに事業所で食材を発注し、各ユニットで調理した食事を提供している。「食事一覧表」をキッチンに掲示し、利用者個々の嚥下状態等に応じて、各ユニットで食事形態に対応している。利用者の好みや得意分野を活かして、野菜の下準備・盛り付け・食器洗い・食器拭き等に参加し、役割が感じられるよう支援している。月3回程度、利用者の好みや希望を反映したイベント食（「昭和の日」に因んで「昭和の味」、郷土料理の「故郷の味」等）・行事食・昼食レクリエーション・おやつレクリエーションの機会を設け、利用者が調理に参加したり、食事やおやつの変化が楽しめる機会づくりに取り組んでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人にあった食事形態を考え、適宜変更しています。また、病状に合わせ医師の採血データより改善できる部分是对应しております。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。ご本人で行なって頂く場合でも、見守り後、職員が不十分な箇所をケアさせて頂いています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの自己排泄が出来るように支援しています。また、排泄リズムの把握に努めています。	利用者個々の「個別援助計画」の「排泄」項目に、個別のニーズ・支援方法・配慮事項等を記載し、職員間で共有している。「介護記録」の「排泄記録」で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、日中は可能な限りトイレでの排泄が継続できるよう取り組んでいる。日々のケアの中で討事項があれば、「介護記録」から職員の意見を集約し、管理者・ユニットリーダー・介護支援専門員等で検討した結果を「介護記録」「申し送りノート」で共有し、現状に適した支援につなげている。誘導時・介助時等のプライバシーへの配慮は、職員間で周知している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に水分を1500CCを目標、水分量の把握に努めこまめに水分提供をしています。また食物繊維や乳製品の提供、適度な運動を行い、自己排泄をして頂けるように支援しています。		
45		(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いくなく入浴に入っていただくお声がけを行っております。また、個別対応をすることで時間を有意義にとり、リラックスできるよう努めております。	利用者個々の「個別援助計画」の「入浴」項目に、個別のニーズ・支援方法・配慮事項等を記載し、職員間で共有している。「介護記録」の「入浴記録」で入浴状況を把握し、利用者の体調・気分・タイミングを考慮しながら、週2～3回入浴できるよう支援している。浴室内に2つの浴槽があり、一般浴槽の個浴で一人ずつ湯を入れ替え、自分のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。身体状況や体調に応じて、シャワー浴・足浴に対応している。ゆず湯や入浴剤、コミュニケーション、お気に入りの整容用品の使用等、入浴がより楽しめるよう支援している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮して、臥床して頂いたり、ソファでお休み頂いたり、食事時間をずらしたりと工夫して、休息して頂けるようにしています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して、最後まで飲み終わったかの確認を怠らない様にしています。また、お薬情報をすぐに確認できるようにファイル保管し、効用などの把握に努め変更時は申し送りを行っております。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前からの情報と現在の会話を通じて本人の嗜好等を把握し、楽しみのきっかけを提供できるよう努めています。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	少しずつ外出の機会が増えましたが、ご家族様とともにが多い状況です。事業所内で気分転換下肢筋力の低下予防に努めました。	機会は少ないが、利用者の希望に応じて個別や少人数で近隣の散歩や喫茶に出かけられるよう支援している。事業所前ベンチでの外気浴や花壇の鑑賞、草抜き、ベランダベンチでの外気浴・洗濯物干し・洗濯物の取り込み等、個別に戸外に出る機会づくりに努めている。令和5年度は、桜の季節に花見ドライブに出かける、家族と外出する、地域の防災訓練に参加する等、家族や地域と協力しながら戸外に出かける機会を設けている。今後は徐々に外出の機会を増やす予定にしている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理が可能な方は、高額にならない程度で、ご自身で管理される方もいますが、管理が難しい方に関しては、事業所で管理しています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の希望があれば、行なって頂いています。相手様にも出来るだけご協力頂こうお伝えしています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を演出しています。利用者や家族様が作成した装飾や季節の花を花瓶に生けたり工夫しています。	各ユニットの共用空間にテーブル席・ソファ・畳スペース・フリースペースが設置され、思い思いに過ごせる環境を整備している。加湿器・空気清浄機を設置し、業者による衛生チェックも実施し衛生管理を行っている。利用者と一緒に制作した桜の切り絵・折り紙のチューリップやバラを壁面に飾り、玄関前の花壇に多種の花を植え季節感が感じられる。ユニット内にキッチンや配膳台があり、調理や片付け・洗濯物干し・洗濯物たたみ等の家事に参加できるよう支援し、生活感を取り入れている。季節の壁面製作・ラジオ体操・DVD鑑賞・歌・トランプやゲーム等、共用空間で活動に参加できる機会作りも行っている。玄関スペース・廊下・ユニット間の行き来を自由にし、事業所前の花壇・ベンチ、2階の広いベランダも共用空間として活用している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士でお話しされる様に、食事の座席やリビングのソファの配置に配慮しています。職員も随時お声をかけます。		
54		(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族様と相談のうえ、ご自身のなじみの物を持ち込んで頂くよう、お声をかけさせて頂いています。	各居室は広く、クローゼット・カウンター・利用者の状態に応じたベッド(3モーター・低床等)等が設置されている。馴染みのある物の持ち込みを家族に依頼し、寝具や、筆筒・椅子・ソファテーブル等の家具、テレビ・携帯電話等の電化製品、ぬいぐるみ・仏壇・家族写真・趣味のもの等の馴染みのものが持ち込まれている。ソファセットでくつろげる空間を作る、趣味の制作活動ができるよう家具や道具を配置する、視界に物を置かない等、その人らしく快適に過ごせる環境づくりに努めている。居室担当者が居室の清掃・備品の整理整頓・衣替え等の環境整備を行っている。居室前に名前・顔写真、大切な犬の写真等を掲示し、自身の居室を認識できるよう配慮している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることと出来ない事の把握に努めて、自立できるところは継続して出来るように意識しています。		